

表 1.4 主要魚介類の選定結果

①瀬戸内海における主な魚介類		②周年定住種	③漁獲量上位種	④保護水面対象種	⑤産卵場・生育場が藻場・干潟等特定域に該当する種	⑥選定結果	選定理由
魚類	イカナゴ	○		保護水面あり(対象種:水産動植物)			
	コノシロ	○					
	マコガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	イシガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	メイタガレイ	○	○				
	ヒラメ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	タマガンゾウビラメ						
	イヌノシタ						
	クロダイ	○					
	マダイ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
	ヘダイ						
	イボダイ	○					
	スズキ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
	アカカマス		○				
	イサキ		○				
	シイラ		○				
	ニベ	○	○				
	シログチ	○	○				
	ベラ	○					
	カサゴ	○			○		
	メバル	○			○		
	アイナメ	○					
	トカゲエソ	○	○				
	マエソ		○				
	サワラ	○					
	マナガツオ						
	カタクチイワシ(シラス)		○				
	タチウオ		○				
	マサバ						
	マアジ		○				
	マルアジ						
	ブリ						
	マイワシ						
	ハモ						
	マアナゴ		○				
	ウナギ						
	ボラ						
	カワハギ						
	トラフグ	○	○				
	シロザメ		○				
	アカエイ		○				
イカ・タコ類	マダコ	○	○				
	イイダコ	○	○				
	テナガダコ	○	○				
	コウイカ	○	○				
エビ・カニ類	スルメイカ		○				
	ガザミ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	シヤコ	○					
	クルマエビ	○			○	◎	生育場が干潟に依存する。
貝類	アカエビ	○					
	キシエビ						
	ヨシエビ	○					
	アサリ	○	○		○	◎	産卵場・生育場が干潟に依存する。
棘皮類	アカガイ	○					
	サルボウ	○			○		
	タイラギ	○					
	トリガイ	○					
	バカガイ	○			○		
	ハマグリ	○			○		
	マテガイ	○					
棘皮類	サザエ	○	○		○	◎	産卵場・生育場が岩礁性藻場に依存する。
	マナマコ	○					

①主な魚介類：以下の文献により抽出した。

「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら、1996）」

「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編、1997）」

「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究部会編、1985）」

②周年定住種：以下の文献を参考に判断した。

沿岸至近域における海洋生物の生態知見（魚類・イカタコ類編）（（財）海洋生物研究所、1991）

沿岸至近域における海洋生物の生態知見（貝類・甲殻類・ウニ類編）（（財）海洋生物研究所、1991）

新版魚類学（下）改訂版（落合明・田中克、1998）

水産生物の生活史と生態（（社）日本水産資源保護協会、1985）

水産生物の生活史と生態（続）（（社）日本水産資源保護協会、1986）

水生生物生態資料（（社）日本水産資源保護協会、1981）

水生生物生態資料（続）（（社）日本水産資源保護協会、1983）

③漁獲量上位種：②の魚種のうち、「瀬戸内海及び太平洋南区における漁業動向（平成7年～16年）中国四国農政局統計部」の漁獲量が50位以内の種。

④保護水面対象種：水産資源保護法に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。

⑤産卵場・生育場が藻場・干潟・サンゴ礁の特定域に該当する種

魚介類の生態特性により、産卵場あるいは生育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに○を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。

⑥選定結果：②～⑤全ての項目に該当する魚介類。

表 1.5 (1) 主要魚介類 (9 種) の生態特性

主要魚介類		卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)										その他
					卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラバ場	カンバ場	ガラモ場	コンブ場	
スズキ	分離浮性卵	表層	沿岸域(外流水の影響を受ける水深50~80m)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(沿岸域) (仔魚後期はアマモ場・河口域周辺に移動する)	底性生活						稚魚期(体長12~60mmまで)						河川域・稚魚期(体長12~60mmまで)
		表層下-10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
マコガレイ	付着沈性卵	51m~		海底塊状粘着	浮遊生活(表層期まで)(水深10m前後)	底性生活(30m以上)		稚魚(30m以上)	稚魚(30m以上)									
		表層																
		表層下-10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
イシガレイ	分離浮性卵	41~50m	内湾(水深30m以上域の底質域)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活から底性生活へ移行(仔魚期・表層期以降)	底性生活(10m以上域の浅所)			稚魚(10m以上域の浅所)	稚魚(10m以上域の浅所)								
		51m~																
		表層																
		表層下-10m																
		11~20m																
		21~30m																
ヒラメ	分離浮性卵	31~40m	沿岸域(水深20~50mの砂底・砂礫・岩礁)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(表層期まで)(表層~中層20mに多く分布)	底性生活(10m以上)				稚魚(10m以上)								
		41~50m																
		51m~																
		表層																
		表層下-10m																
		11~20m																

出典：沿岸近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカ・頭足類) (財)海洋生物研究所, 1991)
 新取組事業(下)取組版 (報告書・田中克, 1998)
 水生生物の生活史と生態 (財)日本水産資源保護協会, 1985)
 主要対象生物の生育環境の生態的知見の収集整理 (平成18年度水産基礎調査委託事業報告書・水産庁, 2006)

表 1.5(2) 主要魚介類（9種）の生態特性

主要魚介類	卵形態	産卵場	主な分布状態			幼稚魚の分布域(底質環境)									
			卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・泥	アラメ場	カンメ場	ガラモ場	コンブ場	その他
マダイ	分離浮性卵	水深	浮遊性卵 (沿岸域)	浮遊性卵(仔魚後期) 水深10m前後	稚魚生活(水深20m 以下)				稚魚(水深20m前後) 水深10m前後						
		表層													
		表層下-10m													
		11-20m													
		21-30m													
クルマエビ	浮性卵	31-40m													
		41-50m													
		51m～													
		表層													
		表層下-10m													
ガザミ	浮性卵	11-20m													
		21-30m													
		31-40m													
		41-50m													
		51m～													
アサリ	分離浮性卵	表層													
		表層下-10m													
		11-20m													
		21-30m													
		31-40m													
サザエ	次性卵	41-50m													
		51m～													
		表層													
		表層下-10m													
		11-20m													

出典：沿岸至近海における海洋生物の生態知見（魚類・イカ・タコ類編）（（財）海洋生物研究所，1991）

新産卵期等（下巻訂正版）（発行者：田中至，1998）

水生生物の生態と生態（（社）日本水産資源保護協会，1995）

主要対象生物の産卵期間の生態的知見の収集整理（平成18年度水産基礎整備調査委託事業報告書，水産庁2006）